

ちびっ子鬼物語 「石亀のシンノスケが帰ってきた」の巻

※登場人物

- ① トシちゃん ② ヨウちゃん ③ イサムちゃん(三人は笑鬼小学校の二年生です。)
- ④ ヨウちゃん(トシちゃんの弟で笑鬼幼稚園の年長さんです。)
- ⑤ ヨウちゃんとトシちゃんのお父さん(おらかな性格で魚釣りが大好きです。)
- ⑥ ヨウちゃんとトシちゃんのお母さん(明るくて話し好きです。)

「今回の物語は、トシちゃんの弟ヨウちゃんが登場します。大切に飼っていた石亀が行方不明になります。そして三ヶ月後、石亀が帰ってきてから嬉しい出来事が次々に起こるお話です。」

▼ **ヨウちゃん** お母さんたたいまゝ。帰ったよ。

▼ **ヨウちゃんとトシちゃんのお母さん** (以降は、お母さんと書きます。)

幼稚園楽しかった？…おやつ食べてね。

▼ **ヨウちゃん**

はい。お母さんありがとっ！ いただきます。モグモグ・モグモグ：あゝ美味しかった。

「ちそうさまでした。はい。…お母さんにお願いがあんだけど。お願いって何ですか？ 僕の幼稚園の友だちが、昔から日本にいる「石亀」を飼っているんだ。すっごく可愛いんだよ。僕も「石亀」を飼いたいです。飼わせてください。お願いします。」

▼ **お母さん**

「ヨウちゃん動物を飼うって大変なのよ。カメを飼うには住む場所を用意しないとイケないのよ。毎日「飯をあげたり、水の入替えもしないといけないのよ。できる。…それから生き物はいつか必ず死んじゃうのよ。大切に飼っていたカメが死んじゃったらすごく寂しいよ！」

▼ **ヨウちゃん**

みんなできます。ちゃんと飼いますからお願います。…

▼ **お母さん**

「ヨウちゃんがお父さんに「石亀」を飼いたいことを相談するのよ。…」

▼ **ヨウちゃんトシちゃんのお父さん** (以降は、お父さんと書きます。)

「朝はちゃんと起きるし、あいさつもしっかり出来るし、「飯も残さず食べて幼稚園にも行くしね。お父さんそうだね。…動物を飼うことで責任感や思いやりの心が身に付いたり、命の大切さも分かってくると思うよ。お母さん、ヨウちゃんに「石亀」をプレゼントしようよ。しばらくは私(お父さん)がお母さんが毎日の「飯や水槽の掃除などを手伝うことにしようか。それでお母さんどうですか？ 私(お母さん)もそれで良いと思います。…明日ヨウちゃんに言うとして。」

「そして翌日の朝、ヨウちゃんは目覚まし時計が鳴るといつものように一人で起きるのでした。」

▼ **ヨウちゃん**

お母さんおはよう。あゝよく寝た。

▼ **お母さん**

「ヨウちゃんおはよう。タベね。ヨウちゃんが「石亀」を飼いたいことをお父さんに相談したの。お父さんとお母さんはヨウちゃんが「石亀」を飼っても良いことにしました。それからしばらくは、

▼ **ヨウちゃん**

「飯や水槽の掃除はお父さんかお母さんが手伝うことにしました。」

「ヨウちゃんは朝「飯を食べ終えてから笑鬼幼稚園のバスに乗り園に向かうのよ。園についてから友だちに石亀を飼うことを話した。…そして園の一日が終わりバスに乗って家に帰って行くのよ。」

▼ **ヨウちゃん**

お母さんたたいまゝ。帰ったよ。

▼ **お母さん**

「ヨウちゃんお帰りなさい。おやつ食べてね。…それからお父さんが今度の日曜日に石亀を買いに行こうって言うたよ。良かったね。」

▼ **ヨウちゃん**

「ヨウちゃんが待ちに待った日曜日になりました。ヨウちゃんは嬉しくてゆうべ眠れなかったよ。」

「お父さんと兄のトシちゃんヨウちゃんの三人は石亀専門店の万年屋でお店の人に薦められた、目がパッチリして元気な石亀を買いました。ヨウちゃんはその亀をシンノスケと名付けました。…そして翌日。」

▼ **ヨウちゃん**

お母さんたたいまゝ。帰ったよ。もうシンノスケに「飯あげた？」

▼ **お母さん**

お帰りなさい。シンノスケは今「飯食べてるよ。ヨウちゃんおやつ食べてね。はい。」

「ユウちゃんは幼稚園から帰るとおやつを食べるや否や水槽の中のシンノスケを毎日観察するのでした。平日のシンノスケのご飯と水槽の掃除はお母さんが面倒をしています。休日はユウちゃんが兄のトシちゃんとお父さんの手を借りてしっかりと面倒をしています。シンノスケもしだいにユウちゃんの家族が分かるようになり、水槽越しに近寄ってくるようになりました。・・そして梅雨の時期を迎えます。・・」

▼**ユウちゃん** 兄(にい)ちゃんおはよう。もつご飯食べ終わつたの。そろそろ小学校へ行くの？

▼**トシちゃん** コウちゃんとイサムちゃんが迎えに来たら一緒に行くよ。・・

▼**コウちゃん、イサムちゃん** おはよう。トシちゃん迎えに来たよ！はーい。行ってきます。

▼**お母さん** あつちうちがぬかっているから気をつけて行ってね。兄(にい)ちゃん行ってらっしゃい！
「そして翌日。この日も朝から雨が降っています。ユウちゃんは朝起きたら一番にシンノスケの水槽を見に行きます。すると連日の大雨で軒下にある水槽の水が一杯になっていて、シンノスケが逃げ出し行方知れずになってしまいました。ユウちゃんは毎日のように家の周りを探すが見つかりません。・・ユウちゃんは大切なシンノスケがいなくなり悲しい気持ちでいっぱいです。」



「やがて梅雨が明け暑い夏になりました。明日からは夏休みです。・ユウちゃんの夏休みは午前中に国語と算数の基礎を勉強し、兄(にい)ちゃん達とセミ捕りをするかカブト虫・クワガタ捕り。お昼を食べてから昼寝をして、その後は秋川で川遊び。シンノスケがいなくなった悲しさはしだいに薄れ、気持ちの整理ができたようです。真っ黒に日焼けしたユウちゃんの夏休みも終るのです。・・そして新学期。」

▼**ユウちゃん** お母さん行ってきます。ユウちゃん気をつけて行って来るのよ。はーい。

「幼稚園がはじまり一週間が経つた日の帰り道、自宅の前をゆっくり歩くシンノスケをユウちゃんが見つけたのです。ユウちゃんはシンノスケに駆け寄って甲羅を持ち、満面の笑みを浮かべながら家に帰るのでした。」

▼**ユウちゃん** 母さん母さん大変大変。見つけた見つけたんだよ！シンノスケ。見て見て！

▼**お母さん** 良く生きていたね。いなくなつて三ヶ月、狸やカラスに食べられずに帰ってきて本当に良かったね。

▼**トシちゃん** 母さんただいま。兄ちゃん兄ちゃんシンノスケ帰ってきたよ！それほんと！奇跡だね。

▼**お父さん** 今帰つたよ。父さん父さんシンノスケ帰ってきたよ！え帰ってくるなんて物語だね。

「そしてユウちゃんへシンノスケが帰ってきてから嬉しい出来事が次々に起こるのでした。・・出来事その一、シンノスケが帰ってきた月にお父さんは勤めている、あきる野のお菓子専門店(株)亀屋の係長になりました。その二、お母さんが買い物に行ったときにもらった福引き抽選券から一等の子供用自転車がありました。今ユウちゃんが上手に乗っています。その三、トシちゃんが見知らぬお婆さんに亀山病院へ行く道を訪ねられました。帰り道と同じなので病院まで案内しました。次の日、お婆さんはトシちゃんちにお礼を言いにきました。兄妹のお爺さんと亡くなる前に会えて嬉しかったと感謝していました。その話を聞いた父さん母さんは感激していました。その四、シンノスケが帰ってきた日の三日後に僕の爺ちゃんは百歳の誕生日でした。これからも長生きするようにみんなでお祝いしました。他にも嬉しい出来事が沢山起こつたのでした。・・」

▼**お父さん** 亀は昔から縁起の良い動物と言われているとおりでね。お父さん確かにそつですわね。

▼**ユウちゃん** シンノスケは家(うち)の新しい神様になったよね。これからもみんなを見守ってくれるよ。